

小野谷機工はこのほど、作業者の腰痛や筋肉痛の原因にもなるタイヤ積み上げ作業を大幅に軽労化する新商品、タイヤセットアップリフト「EasyLift Good70」を販売開始した。275サイズのタイヤの8段積みを実践し、作業性は抜群。前回に引き続き、同社本社でお話を聞いた。(木本)

# タイヤ積み上げ作業を軽労化

## 小野谷機工「EasyLift Good70」

小野谷機工の商品開発の基盤になるのが軽労化へのこだわりである。

タイヤショップは肉体的にハードな職場であり、現場では作業を少しでも軽労化しようと工夫しているが、なかなか思うようにできないのが現状。そのため、若者がなかなか就職しようとしづらいし、就職したとしても定着させるのは大変で、慢性的な人手不足を招いている。

加えて繁忙期などハードな作業が続くと、貴重な戦力である従業員、また店主自身も腰痛、筋肉痛をはじめ、さまざまな体の不調に見舞われることにもなる。

同社では全国のサービスマンがお客様の

「困り事」を幅広く聞き、軽労化につながる製品開発のヒントを得て商品化しているのだ。

今回誕生したタイヤセットアップリフト「EasyLift Good70」も、そんな現場の声をヒントに開発されたものだ。

一般にトラック・バス用タイヤを保管する際は、横積みで保管するが、2人作業でタイヤを積み上げていく作業はかなりの重労働。重さ50〜60キロのタイヤを2人で支え、2メートル近い高さまで積み上げなければならない。繁忙期などは数十本単位で積み上げることもあり、大変な作業になる。

大きな工場では、リフトにハサミ状のアタッチメントを付け、積み上げ作業をリフトで行っているところもあるが、倉庫の2階部分などリフトが上りたない場所がある、また倉庫自体が狭い、比較的本数が少なく、リフトを導入する必要を感じていない店舗などは2人作業で積み上げねばならない。

これを何とか解決すべく、開発部隊は試行錯誤の末、充実の機能を備えた新商品を開発



作業者はほとんど力を使わない

まず、横幅はわずか480ミリと非常にスリムで、狭い空間での作業を可能にした。移動も



100V電源で余裕の作業

「源を使用しています」とのこと。

電源を入れた後は機械下部のタイヤシューターを開く。このシューターはストッパーも兼用しており、開けば固定される仕組みになっている。これで準備完了。

タイヤを転がしてシューター内側の2本の爪の上にタイヤを乗せ

### 275の8段積みに対応

### 狭い倉庫でも抜群の作業性

4輪自在キャスターがついておりスムーズに移動できる。早速、作業を実演してもらった。作業現場まで移動させたのち、

電源はコードリール式で6メートルの長さがある。もちろん、延長コードに接続も可能だ。同社機器商品開発グループの三田村廣大さんの話によると、

「バッテリー式も考えたのですが、機械がタイヤを上昇させる際、どうしてもスピードが遅くなるので稼働時間

1切れを起こしますと、機械が動かなくなります。気軽にお使いいただけるよう100V電

を押せばOK。リフト能力は約70キロだ。上昇スピードは秒速390ミリと、ほぼ人間がタイ

上昇ボタンを押し続ければ、タイヤを押し込むように積み上げるだけ。実に簡単である。この作業を繰り返して、275サイズで8段積みが可能。最高の1560ミリの高さまでタイヤを持ち上げるのもわずか4秒であり、これぐらいの高さになると、人間が作業するよりも明らかにスピードで上回っている。

下降ボタンは0.5

■仕様	
リフト能力	約70kg
揚程	FL+1.560mm
上昇速度	約390mm/s
電源コード	コードリール(6m)
電源	AC100V
本体重量	約100kg

秒以上長押しすることで、一番下まで自動で下がる設定になっている。この機能も、「次のタイヤを取りに行くまでボタンを押し続けているのが煩わしい」というお客様の声を取り入れました(三田村さん)とのこと。

副次的な効果になるが、スムーズな積み上げ作業の効果でタイヤがきれいに揃い、整頓されるので環境美化にもつながると言える。作業終了後はシューターと電源リールを巻き戻し、収納するだけ。

「EasyLift Good70」。倉庫保管時のタイヤ積み上げ作業を軽労化する新商品が登場した。職場の安全環境、作業環境の向上を目指すショップ、販社営業所、整備工場にとって注目の新商品と言えそうだ。

標準価格93万円。納期は約2週間。問い合わせは同社本社0778-2212124または営業所まで。



スリムな外観の「EasyLift Good70」



タイヤを転がしてセットする